

り増加したほか、政保債(220億円、前月210億円)も若干増加し、合計では1,105億円、前月比73億円増となった(純増ベースでは649億円、前月比34億円増)。事業債の起債規模拡大は、電力、鉄鋼等の起債需要が強いうえ、消化地合いが引き続き堅調なためで、起債額が800億円台乗せとなったのは、公社債投信に組入れのため特別起債が行なわれた36年3月(853億円)以来のことである。なお、最近、企業では金融の緩和、発行条件の改訂見越しなどから、起債繰延べを図る向きもみられている。

最近の事業債の消化先内訳をみると、4～6月中の前期比消化増420億円で、相互銀行、信用金庫、農林系統機関が167億円増(全体の40%)、個人その他156億円増(同37%)でこれらが過半を占め、この間、都市銀行、長期信用銀行の消化シェアはかなり低下している。

6月の金融債純増額は、782億円(前月587億円)とかなりの増加となった。とくに割引債は、ボーナス月の関係もあって増加が目だった。

実体経済の動向

◇生産の抑制基調続く、製品在庫は減少傾向

(生産——6月は大幅な反動増)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は5月に大幅に落ち込んだ(-4.7%)反動もあって、6月(速報)には+5.9%と44年4月の+6.0%に次ぐ著増となった。もっとも、3か月移動平均値の前月比では、3月+0.2%、4月-1.4%、5月-0.2%となお減少傾向にあり、生産の抑制基調が続いているとみられる。原計数の前年同月比では+2.4%と前月(+0.4%)よりやや上昇したが、4月の水準(+5.3%)には及ばない。なお、4～6月期通計では前期比-1.4%と、四半期としては37年7～9月期の-1.5%に次ぐ低下幅を示した。

6月の動きを特殊分類別にみると、建設資材(-0.5%)を除き軒並みかなりの増加を示したが、とくに前月スト減産の影響が大きかったとみられる一般資本財(+10.3%)および耐久消費財(+9.5%)の著増が目だっている。一般資本財では、大型電算機、電動機、圧延機械、化学機械等の大型

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

| | 45年 | | | 46年 | 46年 | | |
|------------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 鉱工業 | 216.0 | 221.5 | 220.2 | 224.5 | 224.1 | 213.6 | — |
| 前期(月)比 | 5.1 | 2.6 | 0.6 | 2.0 | -1.6 | -4.7 | 5.9 |
| 前年同期(月)比 | 18.4 | 16.9 | 10.8 | 8.7 | 5.3 | 0.4 | 2.4 |
| 投資財 | 6.5 | 3.8 | 1.6 | 4.5 | -5.0 | -4.6 | 7.6 |
| 資本財 | 6.3 | 5.7 | 2.2 | 5.5 | -6.7 | -6.5 | 9.6 |
| 同(輸送機械を除く) | 6.1 | 7.5 | 2.7 | 6.1 | -7.5 | -9.0 | 10.3 |
| 輸送機械 | 7.4 | -1.0 | 2.3 | 4.4 | -2.1 | -1.7 | — |
| 建設資材 | 6.2 | 1.0 | -0.1 | 1.3 | 0.7 | 0.8 | -0.5 |
| 消費財 | 6.2 | 1.5 | 2.9 | 1.2 | 3.5 | -6.7 | 7.5 |
| 耐久消費財 | 5.8 | 2.0 | -3.6 | 0.8 | 1.9 | -8.1 | 9.5 |
| 非耐久消費財 | 4.8 | 1.3 | -1.8 | 2.1 | 3.7 | -5.1 | 3.4 |
| 生産財 | 2.9 | 1.6 | -0.4 | 0 | -1.8 | -3.4 | 3.9 |

- (注) 1. 通産省調べ、46年6月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

機種が前月減少の反動もあっていずれも大幅増加を示した。耐久消費財ではエアコンディショナー、扇風機等夏物家電製品のほか、軽・小型乗用車、需要好調のカラーテレビ等がかなり増加した。また資本財輸送機械も中・大型乗用車や軽四輪トラックを中心にかなりの増加を示した。そのほか、生産財もかなり増加(+3.9%)したが、これは化学品(合繊原料、プラスチック)、一般機械部品、電子部品等の増加によるもので、鋼材は引き続き弱含み傾向にある。

(出荷—2か月続落のあと大幅増加)

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、前2か月減少(4月-2.6%、5月-2.4%)のあと、6月は+3.6%とかなりの増加を示した(船舶を除くと+5.9%)。3か月移動平均値の前月比は3月+0.9%、4月+0.3%、5月-0.5%と生産同様減少を示しているが、4~6月期通計では前期比+0.7%の増加となり、生産の伸び(-1.4%)を上回っている。

特殊分類別にみると、資本財輸送機械が船舶引渡しの減少から著減したのを除き、各財とも増加したが、とくに一般資本財の大幅増加(+10.9%)が目だっている。これは生産同様、大型電算機、

電動機、化学機械、圧延機械等の引渡し集中によるものである。耐久消費財の増加(+4.6%)はエアコンディショナー、カラーテレビ、乗用車(とくに軽乗用車)が中心であり、また生産財も鋼材、プラスチック、石油製品、機械部品等を中心にかなりの増加(+4.5%)を示した。

(製品在庫—2か月連続して減少)

生産者製品在庫(季節調整済み、前月比)は5月(-1.4%)に次いで6月(速報)も-1.1%と引き続き減少した。3か月移動平均値の前月比でも、3月+1.0%のあと、4月-0.1%、5月-0.3%と減少しており、原計数の前年同月比は+18.0%と、本年2月のピーク時(+29.4%)より大幅に低下している。

財別の動きは区々であり、資本財輸送機械がトラックおよび二輪自動車を中心に大幅増加を示したほか、一般資本財(+1.2%)および非耐久消費財(+1.8%)もそれぞれ小幅の増加となったが、反面、耐久消費財は前月に続いてかなり減少し(-5.5%)、建設資材(-1.5%)、生産財(-0.4%)も若干の減少を示した。このうち耐久消費財では、カラーテレビの在庫調整進捗が響いており

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

| | 45年 | | | 46年 | | 46年 | | |
|------------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| | 6月 | 9月 | 12月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | |
| 鉱工業 | 指数 | 199.1 | 211.5 | 233.1 | 238.1 | 242.2 | 238.7 | — |
| | 前期(月)末比 | 7.3 | 6.2 | 10.2 | 2.1 | 1.7 | 1.4 | -1.1 |
| | 前年同期(月)末比 | 18.3 | 21.6 | 25.7 | 27.6 | 26.5 | 22.0 | 18.0 |
| 製品在庫率 | 94.4 | 99.6 | 108.4 | 107.0 | 111.7 | 112.8 | 107.7 | — |
| 投資財 | 13.7 | 8.3 | 15.3 | 9.3 | 5.3 | 0.8 | 1.4 | — |
| 資本財 | 17.9 | 8.8 | 22.2 | 12.8 | 8.7 | 0.6 | 3.8 | — |
| 同(輸送機械を除く) | 17.0 | 13.9 | 20.6 | 10.8 | 10.5 | 2.1 | 1.2 | — |
| 輸送機械 | 20.9 | -10.6 | 26.4 | 15.6 | -2.5 | 17.1 | — | — |
| 建設資材 | 8.3 | 8.0 | 5.4 | 5.9 | 0.8 | 1.5 | -1.5 | — |
| 消費財 | 6.1 | 3.9 | 9.6 | 3.2 | 1.5 | 3.2 | -2.8 | — |
| 耐久消費財 | 8.2 | 4.5 | 0.8 | 0.1 | 1.6 | 6.0 | -5.5 | — |
| 非耐久消費財 | 5.4 | 1.1 | 15.8 | -3.5 | 1.6 | 0.3 | 1.8 | — |
| 生産財 | 7.0 | 6.9 | 7.6 | 5.7 | -0.6 | 1.3 | -0.4 | — |

(注) 1. 通産省調べ、46年6月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

| | 45年 | | | 46年 | | 46年 | |
|------------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | 1~3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 鉱工業 | 205.4 | 210.9 | 209.6 | 214.5 | 216.8 | 211.6 | — |
| 前期(月)比 | 1.3 | 2.6 | -0.6 | 2.3 | -2.6 | -2.4 | 3.6 |
| 前年同期(月)比 | 15.4 | 14.3 | 8.2 | 6.0 | 6.7 | 4.5 | 4.3 |
| 投資財 | 2.1 | 3.1 | 2.3 | 2.1 | -3.5 | -1.9 | 1.2 |
| 資本財 | 0.4 | 4.5 | 3.2 | -4.2 | -4.1 | -2.4 | 1.1 |
| 同(輸送機械を除く) | 2.2 | 7.4 | -0.3 | 6.1 | -11.8 | -1.8 | 10.9 |
| 輸送機械 | -4.2 | 0.2 | 9.3 | -2.6 | 11.0 | -2.2 | — |
| 建設資材 | 6.5 | -0.5 | 0.2 | -0.3 | -0.6 | 0 | 1.7 |
| 消費財 | 2.2 | 2.7 | -3.4 | 4.1 | -0.7 | -2.0 | 3.5 |
| 耐久消費財 | 3.3 | 2.9 | -3.2 | 2.0 | -1.4 | -0.6 | 4.6 |
| 非耐久消費財 | 0.9 | 3.3 | -3.2 | 4.8 | -0.4 | -2.9 | 0.6 |
| 生産財 | 0.9 | 1.7 | -0.6 | 0.4 | -2.0 | -3.2 | 4.5 |

(注) 1. 通産省調べ、46年6月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(メーカー在庫は5月末528千台→6月末494千台)、また生産財では鋼材、電子部品、織物類等が減少した。

以上の出荷、在庫の動きから、6月の製品在庫率指数は107.7と前月(112.8)に比べ5.1ポイントの大幅低下を示した。もっとも、3ヵ月移動平均で見ると、3月110.9、4月110.5、5月110.7とほぼ横ばいに推移している。

(原材料在庫——6月はかなりの増加)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は前2ヵ月微増にとどまったあと、6月は+2.1%とかなりの増加になった。特殊分類別にみると、輸入分が素原材料(鉄鉱石、非鉄金属鉱、原油)を中心として大幅に増加(+6.8%)したのが響いており、反面、国産分は前月に続き微減(-0.2%)を示した。また、業種別には、鉄鋼、非鉄、石油製品、船舶などでそれぞれかなりの増加となった。なお、4~6月を通じてみると、前期末比+3.2%と1~3月期(+6.9%)に比べて増勢がかなり鈍化している。

この間、原材料消費がほぼ横ばいとどまっているため、在庫率は6月も引き続き上昇し(95.6、前月94.1)、とくに輸入素原材料在庫率はかなり

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

| | 45年 | | 46年 | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 12月 | 3月 | 6月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 在庫指数 | 173.0 | 184.9 | 190.8 | 186.5 | 186.9 | 190.8 |
| 前期(月)末比 | 1.8 | 6.9 | 3.2 | 0.9 | 0.2 | 2.1 |
| 国産分 | 1.1 | 6.5 | 0.2 | 0.6 | -0.1 | -0.2 |
| 素原材料 | 3.6 | 22.2 | 4.4 | 5.3 | 4.1 | -4.8 |
| 製品原材料 | -0.1 | 1.8 | -1.3 | -0.9 | -0.8 | 0.5 |
| 輸入分 | 4.6 | 8.5 | 8.7 | 0.6 | 1.2 | 6.8 |
| 素原材料 | 5.1 | 9.2 | 9.9 | 0.8 | 1.5 | 7.4 |
| 在庫率指数 | 85.6 | 91.1 | 95.6 | 93.6 | 94.1 | 95.6 |
| 国産分 | 81.1 | 86.1 | 87.9 | 88.3 | 88.3 | 87.9 |
| 素原材料 | 92.7 | 116.5 | 123.2 | 124.6 | 130.6 | 123.2 |
| 製品原材料 | 81.0 | 81.8 | 82.3 | 82.6 | 82.0 | 82.3 |
| 輸入分 | 98.5 | 105.5 | 114.7 | 107.3 | 110.9 | 114.7 |
| 素原材料 | 98.0 | 105.4 | 115.7 | 107.3 | 111.4 | 115.7 |

(注) 通産省調べ、46年6月は速報。

大幅に上昇した。

(販売業者在庫——ほぼ横ばい)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は4月に+3.1%とかなり増加したあと、5月は-0.1%とほぼ横ばいとどまった。品目別には、繊維が引き続き増加した反面、民生用電気機械はテレビの在庫調整進捗を映じてかなり減少し、前月軽乗用車を中心に大幅増加を示した自動車も、5月は微減となり、また鋼材はこのところほぼ横ばいに推移している。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

| | 45年 | | 46年 | 46年 | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 9月 | 12月 | 3月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 総合指数 | 177.3 | 184.3 | 187.4 | 187.4 | 193.2 | 193.0 |
| 前期(月)末比 | 2.9 | 3.9 | 1.7 | 0.7 | 3.1 | -0.1 |
| 素原材料 | 3.9 | 12.0 | 3.8 | 4.8 | 10.5 | -3.9 |
| 製品 | 2.3 | 3.2 | 1.9 | 0.6 | 2.8 | 0 |

(注) 通産省調べ、46年5月は速報。

(設備投資——6月の関連指標は大幅増加)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、前2ヵ月減少(4月-11.8%、5月-1.8%)の反動もあって、6月(速報)は+10.9%と大幅に増加した。もっとも、3ヵ月移動平均値の前月比では、3月-2.6%、4月-2.5%、5月-1.5%と減勢をたどっている。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は前2ヵ月減少(4月-42.1%、5月-1.5%)のあと、6月は前月比+39.2%と大幅増加を示した。原計数の前年同月比でも、前年6月が低水準だったこともあって、+9.5%(前月-32.9%)と3ヵ月ぶりに前年水準を上回った。

受注先業種別にみると、製造業の著増(+64.8%)が目だっている。これには、石油精製、造船など好調業種からの受注集中が響いているが、鉄鋼、自動車なども低水準ながら当月はかなりの増加を示した。一方、非製造業では電力の反動増(+51.2%、前月-77.0%)があったものの、全体

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

| | 45年 | | | 46年 | | |
|----------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|
| | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 民 需 | 2,421 (-9.3) | 2,718 (+12.3) | 2,307 (-15.1) | 2,089 (-40.4) | 2,037 (-2.5) | 2,795 (+37.2) |
| 同(船舶を除く) | 1,934 (-18.4) | 2,356 (+21.8) | 1,830 (-22.3) | 1,636 (-42.1) | 1,611 (-1.5) | 2,243 (+39.2) |
| 製 造 業 | 1,087 (-19.1) | 1,110 (+2.2) | 1,105 (-0.5) | 978 (-27.7) | 882 (-9.9) | 1,454 (+64.8) |
| 非製造業 | 1,388 (+5.6) | 1,578 (+13.7) | 1,203 (-23.8) | 1,105 (-46.9) | 1,153 (+4.4) | 1,350 (+17.1) |
| 同(船舶を除く) | 867 (-15.5) | 1,267 (+46.0) | 750 (-40.8) | 683 (-54.5) | 743 (+8.7) | 824 (+10.9) |

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

としては比較的小幅の増加(+10.9%)にとどまった。なお、4~6月期を通じてみると、「船舶を除く民需」ベースで前期比-22.3%の減少(前期+21.8%)となった。これは、前期著増した電力の反落によるところが大きく、電力を除くと、1~3月+2.7%、4~6月-1.6%とほぼ横ばいに推移している。この間、受注残高(船舶を除く、季節調整済み)は4月に前月比-3.0%とかなり減少したあと、5月は+2.7%と増加を示した。

建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み)は5月+16.4%のあと、6月も+8.9%と増加を示した(原計数の前年同月比は5月-1.3%、6月+10.3%)。もっとも、4~6月を通じてみると、前期比-6.7%と再び減少した(1~3月+10.3%)。

◇商品市況は底固め気配

7月にはいつからの商品市況をみると、綿糸、そ毛糸、スフ糸等が高値訂正や市場内部要因から反落したほか、基礎薬品類、石油製品等も弱含みに推移したが、一方亜鉛、亜鉛鉄板、砂糖等が反騰、棒鋼等条鋼類、合繊も引き続き強含みに推移し、また鋼板類、合成樹脂、木材等に底値感が広がるなど、総じてみれば底固め気配を呈した。これは、海外相場高(亜鉛)、輸出の好調(合繊)などに加えて、一部では内需に緩慢ながら回復のき

ざしがみられ、需給関係がいくぶん改善しつつあることも一因となっている。もっとも、このような市況の底堅さはメーカーの生産調整等の市況対策を背景にしたものであり、また内需の持直しも官公需や一部の消費関連品目にとどまっており、設備投資関連の需要は依然低調のため、反発力には乏しい地合いとみられる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……棒鋼、形鋼が官公需の引合い増もあったが、続伸したほか、亜鉛鉄板も反発し、また厚板、薄板も大手商社を中心とした安値品買上げの動きなどから下げ止まりないし強含み商状となっており、全般的にひとところに比べれば明るいムードが出てきている。メーカー、問屋在庫も6月には若干の減少となった。ただ、在庫水準としてはいまだかなり高いうえ、鋼板類では目先大口ユーザーの夏期減産を控えていることなどから、このまま本格的な反騰につながっていくとみる向きは少ない。

繊維……合繊は原糸・原綿輸出が全般に好調を持続しているうえ、織物の国内向け出荷も秋冬ものの需要期入りで、ポリエステル加工糸織物、ナイロンタフタ等を中心に上向いているため大勢持直し傾向を続けたが、天然繊維および化繊は高値訂正(綿糸、人絹糸)や仕手・おもわく筋の買い一服ないし利食い売りなど市場内部要因(そ毛糸、スフ糸)に加え、これまでの市況高騰をながめたメーカーの増産(綿糸、スフ糸、人絹糸)や輸入増(綿糸、生糸)などによる需給の若干の引きゆるみなどもあって、軒並み反落到転じた。

非鉄金属……銅は米国産銅各社のスト突入、チリ地震による生産減などを材料にした海外相場の反騰に伴い、前月とは様変わり急騰を示したが、月央以降は産銅ストの早期収束見込みから再び反落到転じた。その他では、亜鉛が海外相場上昇に伴い国内建値引上げを策してメーカーが出荷をしぼっているため急騰したが、鉛・すずは弱電向けがやや持ち直している以外は荷動き低調で、市況は弱保合ないし保合に推移した。

石油製品……タンカー・フレートの低落から原油のスポット輸入が増加、つれて生産が増大したうえ、工業用灯油、ガソリン、ABC各重油とも不需用期もあって末端実需が盛り上がり欠いているため、需給は引きゆるみぎみであり、市況は総じて軟調に推移した。

セメント……末端の建設工事は概して盛り上がり欠いているが、今後官公需増が期待されるところから市況は強保合いとなっている。

木材……内地材については入荷減少傾向に加え、梅雨が予想より早めに明けたことから、小売筋に小口ながら補充買いの動きが台頭し、市場の気分はやや明るさを見せている。外材も米国港湾ストヤソ連との年間輸入契約の削減等による先行きの入荷減見通しもあり、米材、北洋材を中心に底固めの段階にはいつている。

合成樹脂……合成樹脂では、下げ止まり気配を示していた塩ビが再び弱含みとなっているものの、ポリエチレン、ポリスチレン等は値上りを

示している。一方、基礎薬品類では、硫酸、塩素、塩酸、メタノール、か性ソーダ等かなりの品目が、生産調整長期化に伴う大口ユーザー筋の値引き要請の強まりからここにきて値下がりのみた。

紙……上質紙等一部には需給バランスが若干改善したものもみられるが、商業印刷、広告宣伝、包装関係等の実需は依然として不ぞえのため、洋紙、板紙とも相場は総じて弱保合いで推移した。

砂糖……梅雨明けが例年より早かったこともあって、清涼飲料用需要が増加したうえ、中元用需要が予想以上に伸びたため、相場は若干持直しを示した。

(卸売物価——前月保合いのあと6月は下落)

6月の卸売物価は、総平均で前月比-0.2%の下落となった(前年同月比-0.5%)。

類別にみると、石油・石炭・同製品が昨年8月以来11か月間の連騰(通算+14.2%)を示し、また繊維品、化学品等も前月に続いて若干値上がりし

卸売物価指数の推移

(単位・%)

| | ウエイト | 前年度比上昇率 | | 最近の推移(前月(旬)比上昇率) | | | | | | | | | |
|-----------|-------|------------|------------|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|--|
| | | 44年度 平均 | 45年度 平均 | 46年 | | | 46年6月 | | | 46年7月 | | | |
| | | | | 4月 | 5月 | 6月 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | | |
| 総平均 | 100.0 | + 3.2 | + 2.4 | + 0.3 | 保合 | - 0.2 | - 0.1 | 保合 | - 0.1 | + 0.1 | - 0.1 | | |
| 食料品 | 15.7 | + 4.2 | + 2.4 | 保合 | + 0.4 | - 0.2 | + 0.2 | + 0.1 | 保合 | + 0.1 | - 0.2 | | |
| 繊維品 | 10.7 | + 0.4 | + 5.2 | - 0.4 | + 0.4 | + 0.5 | 保合 | + 0.2 | 保合 | - 0.1 | - 0.4 | | |
| 鉄鋼 | 9.7 | + 11.3 | + 2.2 | - 0.9 | - 0.7 | - 0.4 | - 0.3 | - 0.3 | - 0.1 | + 0.3 | + 0.3 | | |
| 非鉄金属 | 4.4 | + 18.2 | - 7.6 | + 6.5 | - 2.7 | - 3.8 | - 1.9 | - 0.3 | - 0.7 | + 1.1 | + 0.5 | | |
| 金属製品 | 3.8 | + 3.0 | + 4.2 | - 0.2 | - 0.4 | 保合 | + 0.1 | 保合 | - 0.1 | + 0.1 | 保合 | | |
| 機械器具 | 22.1 | + 0.1 | + 1.5 | 保合 | + 0.2 | + 0.1 | + 0.2 | 保合 | - 0.1 | 保合 | 保合 | | |
| 石油・石炭・同製品 | 5.6 | - 1.5 | + 4.5 | + 3.1 | + 1.0 | + 1.1 | + 0.7 | 保合 | 保合 | + 0.3 | - 0.2 | | |
| 木材・同製品 | 6.2 | + 3.0 | + 3.4 | - 1.0 | - 0.5 | - 1.2 | - 0.9 | - 0.8 | - 0.3 | - 0.1 | - 0.1 | | |
| 窯業製品 | 3.0 | + 2.3 | + 4.8 | + 0.4 | + 0.3 | - 0.1 | 保合 | - 0.1 | 保合 | 保合 | - 0.1 | | |
| 化学品 | 7.6 | - 0.4 | + 0.5 | 保合 | + 0.2 | + 0.1 | + 0.1 | 保合 | - 0.1 | - 0.1 | 保合 | | |
| 紙・パルプ・同製品 | 3.4 | + 3.7 | + 6.7 | + 0.4 | + 0.2 | 保合 | - 0.1 | 保合 | - 0.1 | 保合 | - 0.1 | | |
| 雑品目 | 7.9 | + 2.7 | + 3.4 | - 0.3 | + 0.2 | + 0.4 | + 0.4 | 保合 | 保合 | - 0.2 | - 0.1 | | |
| 工業製品 | 82.0 | + 3.0 | + 3.0 | + 0.3 | - 0.1 | - 0.1 | 保合 | - 0.1 | - 0.1 | + 0.1 | 保合 | | |
| 大企業性 | 59.6 | + 2.3 | + 1.5 | + 0.7 | 保合 | - 0.2 | | | | | | | |
| 中小企業性 | 21.0 | + 4.4 | + 6.5 | - 0.4 | - 0.2 | 保合 | | | | | | | |
| 非工業製品 | 18.0 | + 4.1 | - 0.1 | + 0.1 | + 0.2 | - 0.3 | + 0.1 | 保合 | - 0.2 | + 0.2 | - 0.3 | | |

(注) 本行調べ。

たが、海外市況軟調の非鉄金属をはじめ、木材・同製品、鉄鋼が統落し、食料品、窯業製品等も入荷増や在庫圧迫から反落した。また産業別では、工業製品、非工業製品とも値下がりした。

なお、7月にはいつてからは、非鉄金属が海外相場高(銅、亜鉛)から、鉄鋼も梅雨明けによる実需増期待からそれぞれ反騰し、また石油・同製品も原油高から統騰したため、上旬中で前旬比+0.1%と5月上旬以来6旬ぶりに反騰を示したが、中旬には食料品やプレート安に伴う原油の反落から前旬比-0.1%の微落となった。

(工業製品生産者物価—統落)

6月の工業製品生産者物価は、総平均で-0.3%の統落となった。これは、非鉄金属、普通鋼鋼材、木材・同製品の値下がり主因であるが、そのほか食料品、電気機械器具、紙・パルプ・同製品等も若干下落した。

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

| | ウエ イト | 前年度比 上昇率 | | 最近の推移 (前月比上昇率) | | |
|-----------|----------|-------------|------------|-------------------|------|------|
| | | 44年度 平均 | 45年度 平均 | 46年 | | |
| | | | | 4月 | 5月 | 6月 |
| 総平均 | 100.0 | +2.4 | +2.5 | +0.5 | -0.1 | -0.3 |
| 食料品 | 12.6 | +2.4 | +4.3 | +0.2 | +0.2 | -0.2 |
| 天然および化学繊維 | 3.0 | -1.1 | +6.7 | -0.8 | +0.4 | +0.9 |
| 合成繊維 | 1.4 | -3.1 | -6.8 | -1.8 | -0.7 | -0.3 |
| 織物 | 2.8 | +1.3 | +1.5 | +0.2 | -1.3 | 保合 |
| 繊維二次製品 | 3.2 | +3.4 | +7.4 | +0.4 | 保合 | +0.1 |
| 普通鋼鋼材 | 7.2 | +10.2 | +0.8 | -0.5 | 保合 | -1.5 |
| 特殊鋼鋼材その他 | 2.5 | +3.0 | +5.5 | +1.0 | -0.1 | +0.1 |
| 非鉄金属 | 4.4 | +16.5 | -6.5 | +7.1 | -1.9 | -3.8 |
| 金属製品 | 4.6 | +2.2 | +3.1 | -0.1 | -0.1 | -0.1 |
| 一般機械 | 10.4 | +1.6 | +3.3 | 保合 | +0.4 | +0.4 |
| 輸送機械 | 8.3 | -1.2 | +0.2 | +0.1 | 保合 | 保合 |
| 電気機械器具 | 9.1 | +0.1 | +1.1 | -0.4 | 保合 | -0.3 |
| 石油・石炭製品 | 3.7 | -1.6 | +4.6 | +4.6 | +0.1 | +0.1 |
| 木材・同製品 | 5.0 | +3.5 | +6.3 | -1.0 | -0.3 | -1.1 |
| 窯業製品 | 3.4 | +1.4 | +2.9 | +0.3 | +0.5 | 保合 |
| 化学製品 | 7.8 | -1.0 | -0.2 | -0.2 | +0.1 | +0.1 |
| 紙・パルプ・同製品 | 4.5 | +2.9 | +6.0 | +0.4 | 保合 | -0.4 |
| 雑品目 | 6.1 | +2.7 | +3.2 | +0.2 | +0.1 | +0.1 |

(注) 本行調べ。

(消費者物価—7月は反騰)

6月の全国消費者物価指数は前月比-0.1%と前月(-0.1%)に続き微落した(前年同月比+7.2%)。これは食料、被服の下落によるもので、季節商品を除く総合では+0.1%と3月以降騰勢を持續している(前年同月比+7.2%)。

7月の東京消費者物価指数(速報)は、総合で前月比+0.9%と、5月(-0.3%)、6月(-0.1%)と下落したあとかなりの上昇となった(前年同月比+8.4%)。これは、食料がくたもの、生鮮魚介中心に+1.7%と上昇したことが主因であるが、このほか住居、被服、雑費も値上がりした(季節商品を除く総合、前月比+0.2%、前年同月比+8.3%)。

(輸出入物価—輸出物価は統騰、輸入物価も反騰)

6月の輸出物価は前月比+0.2%と昨年12月以来7か月連続の上昇となった(船舶を除くと+0.1%と3か月間連続)。これは食料品、化学製品が統落したものの、金属・同製品が米国向け鋼材を中心に、機械器具でも船舶がそれぞれ統騰し、ま

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

| | ウエ イト | 前年度比 上昇率 | | 最近の推移 (前月比上昇率) | | | 最近 の前 年月 比 | | |
|-----------------------|-----------|-------------|------------|-------------------|------|------|---------------------|------|------|
| | | 44年度 平均 | 45年度 平均 | 46年 | | | | | |
| | | | | 5月 | 6月 | 7月 | | | |
| 消 費 者 物 価 | 総合 | 100.0 | +6.6 | +6.9 | -0.3 | -0.1 | +0.9 | +8.4 | |
| | (季節商品を除く) | 91.4 | +5.6 | +6.3 | +0.4 | 保合 | +0.2 | +8.3 | |
| | 食料 | 40.9 | +8.1 | +7.4 | -0.9 | +0.1 | +1.7 | +8.4 | |
| | 住居 | 10.7 | +3.0 | +5.5 | +0.5 | +0.7 | +1.2 | +7.6 | |
| | 光熱 | 4.5 | +0.3 | +1.1 | +0.1 | 保合 | 保合 | +3.1 | |
| | 被服 | 13.0 | +7.2 | +11.0 | -1.0 | -1.3 | +0.4 | +9.7 | |
| | 雑費 | 31.0 | +6.3 | +5.7 | +0.6 | 保合 | +0.1 | +8.8 | |
| | 全国 | 総合 | 100.0 | +6.4 | +7.3 | -0.1 | -0.1 | | +7.2 |
| | (季節商品を除く) | 91.4 | +5.2 | +6.3 | +0.4 | +0.1 | | +7.5 | |
| | 人口50万市以上 | 総合 | 100.0 | +6.6 | +7.4 | -0.2 | -0.1 | | +7.2 |
| (季節商品を除く) | 91.3 | +5.3 | +6.4 | +0.5 | +0.1 | | +7.6 | | |
| 輸 入 物 価 | 輸出入物価 | | +4.0 | +3.5 | +0.2 | +0.2 | | +0.6 | |
| | 輸出入物価 | | +3.8 | +2.4 | -0.6 | +0.5 | | +1.3 | |
| | 輸出入物価 | | +0.2 | +1.1 | +0.8 | -0.3 | | -0.7 | |

(注) 1. 消費者物価は総府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 46年7月は速報。

た繊維品でも綿織物、衣類等が値上がりしたことによる。

一方、6月の輸入物価は前月比+0.5%と、前月5か月ぶりに反落(前月比-0.6%)したあと、再び上昇をみた。品目別には、金属、食料品、雑品目は引き続き軟調に推移したが、鉱物性燃料(原油、重油)が産油国の価格引上げの影響からかなり値上がりした(前月比+3.0%)ほか、繊維品(原綿、原毛)も上昇をみた。

この結果、交易条件指数は前月比0.3ポイントの悪化となった。

◇国際収支は引き続き高水準の黒字

6月の国際収支は、長期資本収支が赤字となったものの、貿易収支が大幅黒字を続け、短期資本収支等も輸出前受金を中心に流入超を示したため、総合で684百万ドルと引き続き高水準の黒字となった。もっとも、当月の黒字は、輸出代金の前受けなどにより黒字幅が異常に拡大した前月(黒字1,183百万ドル)よりはかなり減少している。

季節調整後の貿易収支をみると、輸入は前月減少の反動で増加(前月比+6.1%)したが、一方輸出が前月著伸のあと、引き続き伸長(前月比+1.1%)を示したため、収支差額では632百万ドルの黒字と、前月(黒字688百万ドル)に次ぐ大幅な黒字となった。

長期資本収支は3か月ぶりに71百万ドルの赤字となった(前月黒字139百万ドル)。これは本邦資本が円貨建世銀債の引受け(31百万ドル)、対世銀円貸付け(19百万ドル)などから210百万ドルの流出超(前月同120百万ドル)となった反面、外国資本が外国投資家による非上場分の確定利付債券の取得について5月中

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

| | 45年 | | | 46年 | | 45年 6月 |
|----------------------|---------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|-----------------|--------------------|
| | 10~ 12月 | 1~ 3月 | 4~ 6月 | 5月 | 6月 | |
| 経常収支 | 943 | 450 | 1,282 | 421 | 486 | 176 |
| 貿易収支 | 1,434 | 1,071 | 1,777 | 580 | 648 | 341 |
| 輸出 | 5,408 | 4,932 | 5,758 | 1,885 | 2,014 | 1,611 |
| 輸入 | 3,974 | 3,861 | 3,981 | 1,305 | 1,366 | 1,270 |
| 貿易外収支 | △ 440 | △ 541 | △ 440 | △ 156 | △ 144 | △ 143 |
| 移転収支 | △ 51 | △ 80 | △ 55 | △ 3 | △ 18 | △ 22 |
| 長期資本収支 | △ 375 | △ 194 | △ 142 | △ 139 | △ 71 | △ 159 |
| 本邦資本 | △ 534 | △ 649 | △ 473 | △ 120 | △ 210 | △ 154 |
| 外国資本 | 159 | 455 | 615 | 259 | 139 | △ 5 |
| 基礎的収支 | 568 (245) | 256 (741) | 1,424 (1,502) | 560 (668) | 415 (399) | 17 (△ 10) |
| 短期資本収支 | 146 | 131 | 291 | 239 | 124 | 20 |
| 誤差脱漏 | 3 | 222 | 573 | 384 | 145 | 11 |
| 総合収支 | 717 | 609 | 2,288 | 1,183 | 684 | 48 |
| 金融勘定 外貨準備増 その他 | 717 843 △ 126 | 609 1,059 △ 322 | 2,288 2,141 147 | 1,183 1,139 44 | 684 683 1 | 48 △ 132 180 |
| 外貨準備高 | 4,399 | 5,458 | 7,599 | 6,916 | 7,599 | 3,769 |
| 為銀対外 ポジション | 1,060 | 866 | 1,162 | 1,156 | 1,162 | 419 |

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
4. *印はSDR配分額128百万ドルを含む。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

| | 国 際 収 支 | | | 通 関 | | 輸 出 | 輸 出 | 輸 入 |
|---------------|------------------|------------------|----------|------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| | 輸 出 | 輸 入 | 貿 易 し | 輸 出 | 輸 入 | 信用状 | 認 証 | 承 認 |
| 45年 10~12月 | 1,670 (+ 4.6) | 1,300 (- 0.2) | 370 | 1,702 (+ 4.9) | 1,638 (- 0.4) | 1,393 (+ 6.2) | 1,794 (+ 4.9) | 1,562 (- 2.3) |
| 46年1~3月 | 1,823 (+ 9.1) | 1,304 (+ 0.3) | 519 | 1,867 (+ 9.7) | 1,630 (- 0.5) | 1,514 (+ 8.7) | 1,941 (+ 8.2) | 1,562 (+ 2.4) |
| 4~6月 | 1,938 (+ 6.3) | 1,319 (+ 1.2) | 619 | 1,985 (+ 6.3) | 1,652 (+ 1.4) | 1,713 (+ 13.1) | 2,127 (+ 9.6) | 1,550 (- 0.8) |
| 46年 3月 | 1,947 (+ 8.3) | 1,321 (+ 0.6) | 626 | 1,998 (+ 8.3) | 1,626 (- 0.4) | 1,633 (+ 11.2) | 2,017 (+ 6.5) | 1,562 (+ 8.6) |
| 4月 | 1,857 (- 4.6) | 1,322 (+ 0.1) | 535 | 1,884 (- 5.7) | 1,715 (+ 5.5) | 1,716 (+ 5.1) | 2,042 (+ 1.2) | 1,459 (- 6.6) |
| 5月 | 1,967 (+ 5.9) | 1,279 (- 3.3) | 688 | 2,020 (+ 7.2) | 1,583 (- 7.7) | 1,667 (- 2.9) | 2,155 (+ 5.5) | 1,490 (+ 2.1) |
| 6月 | 1,989 (+ 1.1) | 1,357 (+ 6.1) | 632 | 2,051 (+ 1.5) | 1,658 (+ 4.7) | 1,755 (+ 5.3) | 2,184 (+ 1.3) | 1,703 (+ 14.3) |

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

旬以降規制されたことを主因に、流入超額がかなり縮小(139百万ドル、前月259百万ドル)したためである。

金融勘定をみると、為銀の対外ポジションは月中6百万ドルの好転にとどまり、外貨準備は月中683百万ドル増加した(6月末残高は7,599百万ドル)。

6月の輸出(通関ベース)は前年同月比25%増と

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

| | 45年 | | 46年 | | 46年 | |
|---------|--------|-------|-------|--------|-------|--|
| | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 5月 | 6月 | |
| 食料品 | 165 | 146 | 152 | 47 | 60 | |
| | (+28) | (+17) | (-5) | (-13) | (+11) | |
| 魚介類 | 99 | 72 | 73 | 23 | 29 | |
| | (+20) | (+22) | (+13) | (+13) | (+20) | |
| 繊維製品 | 712 | 558 | 714 | 239 | 254 | |
| | (+8) | (+13) | (+23) | (+21) | (+29) | |
| 綿織物 | 55 | 38 | 49 | 16 | 17 | |
| | (-9) | (-5) | (+7) | (+5) | (+11) | |
| 合繊織物 | 192 | 150 | 191 | 65 | 65 | |
| | (+16) | (+23) | (+30) | (+31) | (+33) | |
| 化学製品 | 347 | 342 | 372 | 117 | 127 | |
| | (+15) | (+19) | (+26) | (+17) | (+40) | |
| 非金属鉱物製品 | 97 | 82 | 96 | 32 | 34 | |
| | (-8) | (-4) | (+2) | (-1) | (+11) | |
| 金属製品 | 1,039 | 963 | 1,159 | 389 | 417 | |
| | (+19) | (+18) | (+23) | (+24) | (+31) | |
| 鉄鋼 | 776 | 745 | 905 | 303 | 327 | |
| | (+19) | (+18) | (+31) | (+32) | (+37) | |
| 機械機器 | 2,632 | 2,504 | 2,788 | 915 | 949 | |
| | (+28) | (+30) | (+32) | (+44) | (+23) | |
| (船舶を除く) | 2,211 | 2,014 | 2,401 | 761 | 848 | |
| | (+29) | (+31) | (+34) | (+29) | (+38) | |
| テレビ | 108 | 98 | 126 | 45 | 42 | |
| | (+8) | (+39) | (+44) | (+38) | (+40) | |
| ラジオ | 194 | 153 | 182 | 59 | 65 | |
| | (+11) | (+13) | (+8) | (+8) | (+11) | |
| 自動車 | 410 | 438 | 557 | 181 | 192 | |
| | (+54) | (+66) | (+83) | (+75) | (+89) | |
| 船舶 | 421 | 489 | 386 | 153 | 100 | |
| | (+22) | (+25) | (+22) | (+213) | (-35) | |
| 光学機器 | 136 | 117 | 141 | 45 | 52 | |
| | (+10) | (+12) | (+14) | (+11) | (+22) | |
| その他 | 512 | 464 | 585 | 180 | 207 | |
| | (+15) | (+22) | (+22) | (+14) | (+19) | |
| 合計 | 5,503 | 5,060 | 5,866 | 1,919 | 2,048 | |
| | (+20) | (+23) | (+26) | (+29) | (+25) | |
| (船舶を除く) | 5,082 | 4,570 | 5,479 | 1,765 | 1,947 | |
| | (+20) | (+23) | (+26) | (+22) | (+32) | |

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

引き続き高い伸びを示した。地域別にみると、西歐向けが食料品、鉄鋼の減少を中心にこのところ増勢鈍化を示し、共産圏向けも前年水準並みにとどまっているが、米国向けが港湾スト見越しの早積みなどもあって前年同月比+39%と伸びを高めただけ、発展途上国向けも、中南米(同+69%)向けが好調なのに加え、中近東(同+35%)、東南ア

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

| | 45年 | | 46年 | | 46年 | |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--|
| | 10~12月 | 1~3月 | 4~6月 | 5月 | 6月 | |
| 食料品 | 720 | 705 | 689 | 225 | 226 | |
| | (+23) | (+22) | (+14) | (+6) | (+12) | |
| 小麦 | 79 | 90 | 80 | 31 | 23 | |
| | (+5) | (+10) | (+21) | (+5) | (+12) | |
| とうもろこし | 78 | 65 | 58 | 20 | 18 | |
| | (+8) | (-12) | (-25) | (-21) | (-31) | |
| 砂糖 | 86 | 93 | 89 | 32 | 25 | |
| | (+55) | (+60) | (+42) | (+56) | (+17) | |
| 原燃料 | 2,821 | 2,775 | 2,876 | 951 | 974 | |
| | (+22) | (+15) | (+9) | (+7) | (+8) | |
| 羊毛 | 68 | 66 | 74 | 27 | 24 | |
| | (-22) | (-30) | (-21) | (-22) | (-28) | |
| 棉花 | 119 | 134 | 145 | 46 | 51 | |
| | (+15) | (+21) | (+11) | (+11) | (+8) | |
| 鉄鉱石 | 327 | 317 | 354 | 127 | 115 | |
| | (+28) | (+19) | (+16) | (+25) | (+7) | |
| 鉄鋼くず | 64 | 43 | 31 | 13 | 9 | |
| | (-8) | (-34) | (-69) | (-66) | (-76) | |
| 非鉄金属鉱 | 265 | 246 | 266 | 81 | 95 | |
| | (+21) | (-4) | (-3) | (+5) | (-4) | |
| 大豆 | 104 | 109 | 93 | 27 | 31 | |
| | (+34) | (+24) | (+7) | (-19) | (+4) | |
| 木材 | 430 | 387 | 382 | 127 | 134 | |
| | (+25) | (+15) | (-1) | (-2) | (-5) | |
| 石炭 | 297 | 272 | 264 | 92 | 82 | |
| | (+61) | (+45) | (+6) | (+10) | (-2) | |
| 原油 | 618 | 679 | 756 | 249 | 257 | |
| | (+15) | (+25) | (+42) | (+28) | (+61) | |
| 化学製品 | 257 | 247 | 247 | 74 | 85 | |
| | (+22) | (+3) | (-3) | (-13) | (-3) | |
| 機械機器 | 592 | 644 | 660 | 241 | 218 | |
| | (+38) | (+15) | (+12) | (+47) | (-16) | |
| 鉄鋼 | 44 | 40 | 24 | 7 | 7 | |
| | (-33) | (-51) | (-68) | (-74) | (-73) | |
| 非鉄金属 | 206 | 163 | 189 | 57 | 70 | |
| | (-19) | (-38) | (-20) | (-39) | (+1) | |
| その他 | 329 | 293 | 316 | 95 | 115 | |
| | (+27) | (+13) | (+12) | (+3) | (+20) | |
| 合計 | 4,968 | 4,867 | 5,001 | 1,651 | 1,695 | |
| | (+21) | (+11) | (+7) | (+5) | (+3) | |

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

(同+23%)向けが増勢を強めている。品目別には、自動車^{自動車}が前年同月比9割近い伸びを示したほか、テレビ、鉄鋼等の輸出も好調で、そのほか繊維製品、化学製品、光学機械等が伸びを高めている。

7月の輸出信用状接受高は、前月著伸のあとだけに季節調整後の前月比では微減(-0.1%)となったが、原計数の前年同月比では33.3%増と引き続き高い伸びを示している。地域別に前年同月比で見ると、米国向けが一段と伸び率を高め(+45%)、欧州向け(+27%)、アジア向け(+24%)なども高い増勢を示した。品目別には自動車(+70%)、繊維製品(+41%)、鉄鋼(+31%)が好調を持続したほか、食料品(+65%)も冷凍まぐろ類を中心にかなり増加した。

6月の輸入(通関ベース)は季節調整後の前月比では+4.7%となったが、これは前月の大幅な落込み(前月比-7.7%)の反動によるところが大きく、3ヵ月移動平均値の前月比では3月+1.7%、

4月-1.0%、5月+0.7%となっており、大勢は依然伸び悩みとみられる(原計数の前年同月比は+3.4%)。品目別にみると、原燃料の輸入は原油の値上がりにもかかわらず前年同月比+8%と低調であり、また機械機器、化学製品の輸入も前年同月を下回った。

6月の輸入承認額は季節調整後の前月比で+14.3%と石油、機械、食料品等を主体に高い伸びを示した。もっとも、これは4月、5月がとくに低調だったことの反動によるところが大きく、4~6月期の前期比では-0.8%とほぼ横ばいとどまっている。

6月の輸入素原材料在庫は、鉄鉱石、銅鉱石、原油等を中心に、季節調整後の前月比で+7.4%と著増した。一方、輸入素原材料消費も同+3.4%と3ヵ月ぶりに増加したが、その水準はほぼ1~3月並みにとどまっており、このため同在庫率は115.7(前月111.4)と依然年初来の上昇傾向を持続した。